

前橋市保健所運営協議会（令和元年度第1回）結果概要

I 日 時

令和元年7月9日（火） 午後1時30分～3時

II 場 所

前橋市保健センター 4階 集団指導室

III 参 加 者

【出席委員：13人】◎＝会長 ○＝副会長

◎田 中 義	（前橋市医師会）
○石 原 秀一郎	（前橋市歯科医師会）
佐 藤 岳 彦	（前橋市薬剤師会）
清 野 吉 雄	（前橋地区獣医師会）
宮 崎 瑞 穂	（群馬県病院協会）
久保田 晋	（前橋食品衛生協会）
中 村 広 文	（群馬県生活衛生同業組合連合会）
池 田 篤	（前橋警察署）
岩 崎 博 文	（前橋市小中学校校長会）
品 川 孝 恵	（公募）
高草木 秀 夫	（公募）
小 山 洋	（群馬大学医学部）
齋 藤 晴 己	（前橋市自治会連合会）

【前橋市】

齋藤健康部長、矢沢保健所長、狩野保健総務課長、藤田健康増進課長、
中西保健予防課長、小野衛生検査課長、他各係長等

IV 会議内容

- 1 あいさつ
- 2 委員紹介
- 3 会長、副会長の選任について
- 4 議事
 - （1）前橋市保健所の概要について
 - （2）平成30年度事業実施状況について
 - （3）令和元年度予算及び事業概要について
 - （4）保健所業務の取組み状況について
 - ①平成30年度成人歯科保健事業の取組について
 - ②平成30年度各種がん検診の受診状況について
 - ③難病受給者の推移と特定医療費（指定難病）支給認定更新申請費用助成事業の拡充について
 - ④自殺対策の取組について
 - ⑤今期のインフルエンザ発生動向について

⑥猫の去勢・不妊手術費補助金交付事業について

⑦動物愛護・管理推進事業の実施状況について

⑧スズメバチの巣駆除事業について

⑨食中毒の発生状況について

(5) その他

5 お礼

6 閉会

V 配布資料

【資料1】前橋市保健所の概要について

【資料2】平成30年度事業実施状況について

【資料3】令和元年度予算及び事業概要について

【資料4】平成30年度成人歯科保健事業の取組について

【資料5】平成30年度各種がん検診の受診状況について

【資料6】難病受給者の推移と特定医療費（指定難病）支給認定更新申請費用助成事業の拡充について

【資料7】自殺対策の取組について

【資料8】今期のインフルエンザ発生動向について

【資料9】猫の去勢・不妊手術費補助金交付事業について

【資料10】動物愛護・管理推進事業の実施状況について

【資料11】スズメバチの巣駆除事業について

【資料12】食中毒の発生状況について

VI 結果概要

進行：狩野課長

1 あいさつ

(齋藤健康部長)

- ・ 前橋市保健所は、平成21年度に開設し今年度11年目を迎えた。これからも様々な活動を行ってまいりたい。
- ・ 今回も忌憚のない意見をいただけるとありがたい。

2 委員紹介

出席の各委員から自己紹介が行われた。

3 会長、副会長の選任について

互選により、会長：田中委員（前橋市医師会）、副会長：石原委員（前橋市歯科医師会）が選任された。

4 議事概要

はじめに、「議事（1）前橋市保健所の概要について」から「（3）令和元年度予算及び事業概要について」までを、一括して事務局より説明を行った後、質疑応答を行った。

次に、「(4) 保健所業務の取組状況について」を、項目ごとの事務局からの説明に対して、項目ごとに質疑応答を行った。

《主な質疑要旨》

「(1) 前橋市保健所の概要について」から「(3) 平成30年度予算及び事業概要」までについて

(田中会長)

- ・1ページの資料1(1)平成31年3月末日現在の人口で、外国人住民の数が6,815人とあるが、どこの国の人が多いのか。

(保健総務課 本間副参事)

- ・平成31年2月の統計によると、多い順から中国 18%、ベトナム 18%、フィリピン 14%、ネパール、インドネシア、韓国、ブラジル、その他となっている。

(田中会長)

- ・資料p.18の厚生労働大臣免許の表の1項目で医師新規72人は群馬県に本籍があつて医者になった数という認識でよいのか。

(保健総務課 狩野課長)

- ・群馬県に本籍がある者の数とは限らない。

(田中会長)

- ・申請は最寄りの保健所どこでもよいのか。

(保健総務課 本間副参事)

- ・基本は前橋市に住民登録があるという条件がある。

(4) 保健所業務の取り組み状況について

①平成30年度成人歯科保健事業の取組について

(石原副会長)

- ・平成30年度から20歳・25歳の健診が始まり、各世代切れ目ない歯科検診ができている。
- ・受診対象者数の出し方が変わり、平成29年と比較すると対象者数が3倍程度となっているため、受診率は5.6%と低い数字であるが、受診者数は増えている。
- ・歯周病等は若年層から始まり、症状は出ず、将来的に出てくるものである。まず健診でチェックし、受診勧告することが軽症で歯周病を抑えることにつながるため、今後受診率向上に努める必要がある。

②平成30年度各種がん検診の受診状況について

(田中会長)

- ・対象年齢変更のため受診率が低下したが、受診数は去年と比較し、同数か微増であろうかと思う。各種がん検診を無料にしたのはいつであったか。

(健康増進課 布施川補佐)

- ・ H 2 4 年度から無料である。
- ・ 受診対象者の捉え方については厚生労働省の指針に基づいており、従来の推計値が曖昧であるため、全住民へと変わったことによるものである。

(田中会長)

- ・ 公務員等の職場で受診した者は受診しているにも関わらず、受診した者の人数に入らないとすると、数値としての意味を持たせることは難しい。
- ・ 市の検診の対象人数のうち何人受けたとなれば数値として意味があるのでは。

(健康増進課 布施川補佐)

- ・ 対象者の数値を捉えることができないので、現状では難しい。

(小山委員)

- ・ 受診率の出し方については以前から課題である。市として捉えることのできる国保加入者等を分母として受診率を出して欲しい。
- ・ がん検診が無料化され受診率が上がっていたが、このところ停滞している。市民あてのがん検診の案内通知は内容の難しさを感じ、見にくいものであるのも一因かと思う。
- ・ 受診率向上のためにがん検診の再勧奨を実施しても受診率はあまり上がらないうえ、毎年職員の負担が大きいものであるとすれば、自治会レベルで誘い合って健診を促すというような受診しやすい環境づくりを地域職域連携の中で考える必要があると思う。

(高草木委員)

- ・ がん検診受診率向上のためには、保健センターのホームページ上で、予約できる仕組みが必要である。がん検診受入れ医療機関として前橋市に認定され、ホームページ上に登録された医療機関は毎日若しくは週単位で受診可能者数等を更新する。検診希望者は医療機関の受入れ状況が可視化されるので、容易に予約可能である。ネット機器を持たない方もいるので広報等で同情報を周知すれば受診率はより上がるのではないか。

(田中会長)

- ・ 検討する。

(高草木委員)

- ・ がん検診を受診したいか否か市民に募って応募者の中の何人が来たかという受診率の出し方が良いのではないか。市民に募る意は受診の有無理由の課題が明確になり、対策し易くなる利点があるからです。

④自殺対策の取組について

(小山委員)

- ・ P 63 の 3 の「男の運動教室」や口頭で説明のあった中学校でのゲートキーパー研修の実施について実施するのは良いが、前段で現状の実態の把握をすることが重要である。実態調査があって対策を立てられるものと考えてる。

⑤今期のインフルエンザ発生動向について

(田中会長)

- ・今年はB型が少なかったのか。

(保健予防課 木村補佐)

- ・昨年と比べて少なかった。今年4月はB型よりA型が多く報告されている。

⑦猫の去勢・不妊手術費補助金交付事業について

(清野委員)

- ・本報告とは別件ではあるが不法投棄を防ぐという観点で、猫のマイクロチップの装着の対応については検討しているのか。

(衛生検査課 関口副参事)

- ・動物愛護法の改正に基づき、販売店は義務化、その他は努力義務となるが、保健所として補助を含め、研究していきたいと考えている。

⑨スズメバチの巣駆除事業について

(齋藤委員)

- ・自治会としても補助金をもらい、駆除を続けていきたいと考えている。

(田中会長)

- ・予算と決算を比較すると平成 30 年度実績は予想よりもだいぶ件数は少なかったという捉えでよいか。

(衛生検査課 関口副参事)

- ・そのとおり、実績が少なくなり令和元年度予算は減少することとなった。

⑩食中毒の発生状況について

(久保田委員)

- ・6/13 の事案については営業許可証のない施設で出ている。持ち込んだ給食施設が原因なのか。

(衛生検査課 松本副参事)

- ・当該施設は認定こども園直営で園の職員が調理を行っている施設なので営業許可は不要である。

(5) その他

(品川委員)

- ・本協議会の資料の作り方について、数字の羅列ではどう捉えたらよいのか分からない。例えばがん検診の目的はがんによる死亡を減少させることとあるが、統計を作ることに加え、結果の検証と評価を入れて欲しい。それがあれば委員として他の市民に伝えられる。統計に意味を持たせて市職員が感じた部分を掲載してほしい。また、受診率の分母(対象者数)の捉え方を平成 29 年度と平成 30 年度で変更したとあったが、なぜ変更になったのか理解できなかった。

(田中会長)

- ・結果をしっかりと評価しないと次の方策に進めないというのはそのとおりであろう。

(健康増進課 布施川補佐)

- ・受診率の分母の件は厚生労働省の指針に基づいているものである。
- ・受診率向上に向けて再勧奨、精密検査実施率向上のため勧奨通知と対策を講じており、引き続き努力していきたい。

(小山委員)

- ・職域（非正規労働者等）者が受診しづらいことは問題である。群馬県では地域と職域が連携する事業を実施しているが、進んでいないと感じる。市町村でも意識していただきたい。

(高草木委員)

- ・業務計画（当年度計画）は昨年度実績のレビューを徹底的に行い、生産性向上課題（コストダウン）や将来保健行政課題も加味した計画でなくてはならない。そしてその資料（計画書）はレビューに基づいた生産性向上策、将来の保健行政課題を含め、第三者にも分かるように表現されたものであるべき。
- ・各部門（市役所ライン部門）のレビュー結果に基づく課題に関し、その具体的な方策について議論するのが本会議体（協議会）の存在意義であると思う。
- ・本協議会は年間2回のみであるので、本協議会で出された方針（結論）は各部門で検討され、協議会に中間報告としてでも逐次その経過報告がされる仕組みを作らないと協議会の存在意義がないと思われるので、そういった会議体にして欲しい。前橋市の見識者（医療関連等）が揃う本協議会の在るべき姿は、前橋市の保健行政の将来ビジョンを描き、その施策を中間計画、長期計画に反映させていくことかと思う。

(田中会長)

- ・よりよい保健所運営を目指す観点から分かりやすいデータを作成してほしい。

5 お礼

(矢沢保健所長)

- ・提案や助言を生かしよりよい保健所運営を行っていきたい。

6 閉会（午後3時）